

文武両道 ー富士見中の新入生に伝えたい言葉ー

（前略）226名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、富士見中学校第1学年の生徒となりました。先生方も上級生も皆さんの入学を本当に楽しみにしていました。本日で、全校生徒689名がそろい、富士見中学校は新たな一步を踏み出します。全員で力を合わせて、一步一步前進していきましょう。

さて、伝統と歴史あるこの富士見中学校の生徒となるのにあたり、一番始めに伝えたい言葉を紹介します。それは「文武両道」という言葉です。皆さんも聞いたことがあるのではないのでしょうか。文武両道というと、一般的には「勉強もスポーツも頑張る」という意味で使われています。そういう視点で見れば、富士見中はすでに文武両道です。昨年度、本校は学業はいうまでもなく、部活動でも大変素晴らしい成績を収めることができました。ただ、これは昨年度に限ったことではありません。私はこの4月に校長として本校に着任したわけですが、今回は3回目の富士見中学校着任です。約10年前も、そして、約30年前の富士見中学校も、まさに文武両道でした。もっといえば、今から77年前の昭和22年に開校して以来、27000名にもものぼる多くの卒業生が脈々と受け継いできた富士見中学校の精神こそが「文武両道」なのです。皆さんから見て、右手方向の壁面に「文武両道」と書かれた古い額が掲げられているのがみえるはずです。

本校では、文武両道の「文」は授業をはじめとする「学習」、「武」は部活動・クラブ活動・習い事などをはじめとする「自主的な体験活動」とであると捉えています。それぞれ、成績がよく賞状を多くもらうなど結果を残せばいいのか・・・、決してそうではありません。肝心なのは気持ち・心の部分です。江戸時代初期の学者・中江藤樹は文武両道について、「文と武は元来一徳であって分かつことができない」と述べています。今、紹介した「元来一徳であって」の「徳」は心の部分を指し示すと、私は考えています。授業や部活動などの場面で、粘り強くあきらめずに頑張ろうとする心、仲間を思いやる心などが、まずは、何と言っても大事なのです。結果は、自ずからついてくるものです。皆さんの頑張りを、本校の先生方は全力で応援します。

熊谷市では今年度も、市内の全ての小・中学校において「学力日本一」を掲げ、「知・徳・体のバランスのとれた学力」の育成に取り組んでいきます。本校では、そのことを踏まえ「自ら学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「健康な生徒」の育成を目標に、生徒一人一人にしっかりと目を向け、授業を中心とした日々の教育活動に取り組んでまいります。

保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。大切なお子さんをお預かりし、その責任の重さに身の引き締まる思いです。中学校での3年間はお子さんが心身共に大きく成長する時期です。お子さんの健やかな成長のためには、保護者の皆様と私たち職員とが心をつなげて支え導いていくことが大切であると考えております。本校の教育活動に対しまして、御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新入生の中学校生活が明るく充実したものであることを改めて祈念するとともに、御臨席賜りました御来賓の皆さま方に重ねて御礼申し上げ、式辞といたします。